



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.30 (2020.12)

【お知らせ】2021年2月21日 P-FES 開催決定！

2020年度 近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会 運営委員 小林正宜

例年は近畿ブロックのプログラムに所属する専攻医が一堂に会し、ショーケースポートフォリオ口頭発表会の場としていた同会ですが、コロナ情勢を鑑み、本年度は2021年2月21日(日)にオンラインで実施することとなりました。発表者につきましてはJPCA近畿ブロックの家庭医療・総合診療専攻医のみ対象で募集いたしました。事前に詳細事例報告の提出等もごございますので、詳細は下記申し込みフォームご参照ください。また、今回は近畿ブロック以外の全国の皆様にも「視聴者」として2月19日まで申し込みいただくことが可能となっております。是非、多くの皆様にご参加いただき、withコロナ時代の新しいポートフォリオ発表会の形を作り上げたいと考えております。何卒よろしく願いいたします。申し込みやお問い合わせなどについては下記のフォームから宜しく願い致します。

<https://p-fes2020.peatix.com/view>

発表者チケット：1000円 登録申し込み期限：12月20日

視聴者チケット：1000円 視聴申し込み期限：2月19日



【特集】新型コロナウイルスの取り組み 会員の声

やわらぎクリニック院長 北 和也

奈良県では、発熱外来認定医療機関（申請制）と認定されることで、保健所を介さず診療所独自の判断で新型コロナのPCRや抗原検査ができる。患者さん、保健所、後方医療機関の負担軽減に貢献できると考えて、当院も登録をした。登録により、近隣の高齢者・障害者施設や企業、学校などでクラスター発生した際にいつでも対応できるよう、必要物品を診療所で備蓄しておきたいという思いもあった。しかし、実際に発生し対応した際には保健所で全ての物品を準備してもらえた。手ぶらで施設に向かって下さいと心強い言葉をかけていただき非常に有り難かった。ちなみに保健所スタッフによると、クラスター対応してくれる医師はなかなか見つからないので、快く対応したことに大変感謝していただいた。

院内での新型コロナ対策は、スタッフとのタスクシェアリングが重要である。事務員、看護師が電話で最低限の問診をとり、ゾーニングを図り、医師の対面を行う。各々の持ち場で安全かつ効率的に業務にあたるには、各人が感染対策に関する

知識をつけ、安心しながら業務にあたる必要がある。日々の情報共有（LINE グループなどで共有）のほか、感染管理認定看護師に来院してもらい、全職員対象の個人防護具の着脱やゾーニングについての講習会を開いた。駐車場での車外からの診察、会議室を1つ潰しての別室診察を行い空間的分離を行っている。プライバシーへの配慮も心がける。個人防護具と診療時間には限りがあり、省エネ対応するよう心掛けているが、コロナ以外の発熱疾患を見逃さないよう効率よく問診することも重要である。詳細は ①南山堂 | 月刊誌「治療」 | 2020年11月 Vol.102 No.11 ポストコロナ時代のプライマリ・ケアとは? ②https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2020/PA03375_02 を参考にいただくと幸いです。また、日常診療やヘルスマンテナンスも雑にならないよう工夫する。通院の合間にできるワクチン接種などは継続的に行なっている。一方、胃がん検診（胃カメラ）など急がないものは行政と相談し冬の間は一旦中断している。行政とはいえ、地域の広報誌や動画作成などしてコラボしながら情報発信し続けている。

この1月からは地元医師会と協力し、PCR ドライブスルー対応を統括させていただくことになった。どうすれば安全で無理のない対応を継続し、地域に貢献できるか、周囲の知恵を借りつつ、みんなで日々試行錯誤している。

【報告】滋賀支部主催 在宅医療多職種キャリアアップ研究会

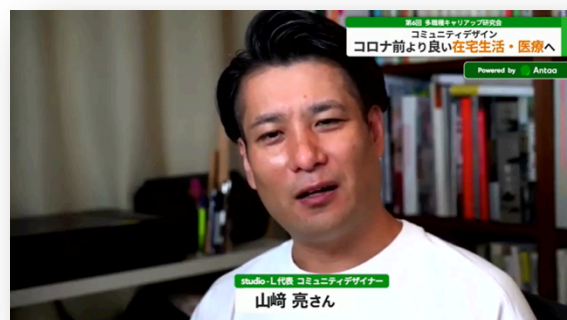
医療生協こうせい駅前診療所 所長 佐々木隆史



今年で六年目となる研究会。今回は、WEB 開催でした。10 職種にも上る多職種の委員から在宅医療・生活には地域の力「ソーシャルキャピタル」が必要と提案され、テーマは「コロナで傷ついた地域の再構成」となりました。記念講演は、コミュニティデザイナーの山崎亮氏。『オンライン時代になり、取り残される人に注目されるが、新たに参画する人も増えるという利点。ICT リテラシーを高める、患者さんや高齢者、在宅患者家族に使い方を教えて、利便性を享受してもらうことは、社会的

処方の一つである。地域づくりのピンポイントの仲間増やしではなく、間口を幅広くすることで結果的に、地域づくりは進む。』というところが印象に残りました。同期型（リアルタイム）の学習と非同期型（録画）の学習を組み合わせる、新しい学習スタイルもお勧めしていました。

毎年人気の体験コーナーは、360度VR動画をつかった訪問診療体験やレビー幻視体験を企画しましたが、まだまだ発展の余地ありでした（笑）。『今は休止期間。種火期間だと思おう』という言葉に励まされました。



[報告] 地域住民への YouTube 発信

社会医療法人 健生会 大福診療所 朝倉健太郎

短時間の日常診療の傍ら、新型コロナウイルスへの感染対策の注意点について事細かに助言することはなかなか難しいと感じることも少なくありません。そのような中、日本プライマリ・ケア連合学会が作成している You Tube「家庭医お悩み相談所」の動画配信は、私たちの肩代わりになってくれます。一般向けに作成された実用的な内容で、かゆいところに手が届く情報ばかりか、私たちも驚きながら学ばせていただけるものになっています。登場する家庭医たちの落ち着きを払った熱心な説明は、巷にあふれる情報番組とは一線を画しており、重箱の隅をつついたり、扇動させて惹きつけたりするタイプとはまったく異なります。

2020年12月末時点で18本の動画がアップされていますが、日常生活における基本的な感染対策にはじまり、忘年会や年末年始の動きの中で心がけておくべきこと、寒い冬の時期の換気方法、若者に向けたメッセージなど、多くの人たちの頭の片隅に残り、日常生活で用いたくなること間違いありません。

今回、大福診療所では、あらたに診察室前の壁にモニタを設置しましたが、専用のiPad、設置工事費を含め、総費用10数万円は感染拡大防止支援事業の補助金にてまかなうことができました。

診察室に患者さん呼び入れる際、「まだかまだか」と待合の視線が一気にこちらに集中するのですが、今ではモニタに釘付けになっている患者さん、横目でモニタを見ている患者さんたちを見て、私もほくそ笑んでいます。依然、先が見えない状況が続いていますが、そのような中であっても診療所が医療・介護の拠り所となり、少しでもコミュニティのヘルスリテラシーに寄与できればと思っています。



[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之